ゆくはし

ID 0020341

今昔物語

山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきた行橋市。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

～ Vol.036　節目にみる行橋市

10 月 10 日は、行橋市の誕生日。今から 72 年前の昭和 29 年（1954）10 月 10 日、行橋町と蓑島村、今元村、仲津村、泉村、今川村、稗田村、延永村、椿市村の 1 町 8 村が 1 つになり、県下 18 番目の市として行橋市が誕生しました。

市となった行橋は、翌年に市章を制定。行橋の「行」の字を丸くした市章には、円満な市制と伸びゆくまちへの願いが込められています。また、昭和 41 年（1966）に市の花に「コスモス」を、昭和 48 年（1973）には市の木に「もくせい」を制定します。コスモスの 1 つの芯と 8 つの花びらは 1 町 8 村の合併を表し、もくせいは 10 月 10 日の誕生日を迎える頃に花を咲かせます。昭和 49 年（1974）には「行橋市民の歌」も作られ、市民のふるさととしての「行橋市」の姿が、少しずつ形づくられていきました。

1964 年 / 昭和 39 年

■行橋市民会館のオープン

昭和 39 年（1964）9 月、行橋市民会館が開館。市制施行から 10 年を迎えた行橋市にとって、待望の文化施設の誕生です。10 月 10 日には、市制 10 周年記念式典と合わせて落成式が行われました。この日は、くしくも東京オリンピックの開会式が行われた日でもあります。日本中が新しい時代の幕開けにわいたその日、行橋でも新たな市民文化の拠点が産声を上げました。



▲半世紀余にわたり市民に親しまれた市民会館は、老朽化のため、平成 28 年（2016）10 月に閉館。跡地には行橋警察署の新庁舎が建設され、平成 31 年（2019）4 月に移転した。

2024 年 / 令和 6 年

■市制 70 周年記念式典

令和 6 年（2024）10 月 10 日、行橋市は市制施行 70 周年を迎えました。

70 周年のテーマは「協創」。「つなげよう　未来に向かう笑顔のバトン」をキャッチフレーズに、行橋市ゆかりのトップランナーによる「未来協創フォーラム」やマンガ『末松謙澄』の製作出版など、年間を通してさまざまな記念事業を実施。10 月 13 日には、若い世代による「10 年後のあなたへ」のメッセージ発表、市政功労者表彰などを盛り込んだ市制 70 周年記念式典が開かれ、14 日まで「九州新喜劇 in 行橋」などの記念フェアが行われました。



▲記念式典、記念フェアでは、記念ムービーの披露や F-2 祝賀飛行、BMX ショー、ぽかぽかマルシェ、市民ステージなど多彩な催しが行われた。

市制施行から 72 年。振り返れば、行橋市の歩みには、その時々の時代を映す節目がありました。市民会館に新しい文化の息吹を感じた 10 周年、これまでの歴史を振り返り、未来へ思いをつないだ 70 周年。その一つひとつの節目には、まちを思い、ふるさとを大切にする人々の姿がありました。

次の節目には、どんな行橋の風景が広がっているのでしょう。これまでの歩みを礎に、新たな時代へ。行橋市の物語は、これからも節目、節目に、新たな 1 ページを刻んでいきます。